

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	五反田せせらぎ保育園
所在地	東京都品川区西五反田2-18-3 グレイス五反田206

1 活動のテーマ

音

＜テーマの設定理由＞

昨年度の音のテーマにて身近のものには音がありその音を聴いて次への活動へと子どもたちが楽しんで意向で来ていることからもっと子どもたちの音への興味関心を深めて遊びがどんなものに発展するか研修したい

2 活動スケジュール

5月 ものをたたいて音確認
8月 音の出る器具を使い遊んでみる
12月 楽器を使って音を鳴らす
2月 音楽をかけて一緒に音を出してみる

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

段ボール・ボール・水・ビニール（子どもが自ら触って音を出して遊んだ）
キーボード（子どもの近くに置いておくと、自らキーボードの音を出して音当てをして遊び始めた）
タンバリン、鈴、カスタネット（楽器を準備すると子ども達は各々で音を出し始めていた。）
スピーカーで曲を流しながら、音を出す。

4 探究活動の実践

＜活動の内容＞

初めは身の回りにあるものから音を出して遊んでみた。初めは保育士の問いかけに応じていたが次第に自ら音の出るものに挑戦していった。子どもの興味関心は広がり楽器を手元に置くとどのようにしたら音になるのか楽しみながら楽器に触れていた。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

低年齢の子どもたちはおもちゃ遊びにておもちゃ同士を叩いて音が出ることを楽しむ姿が見られた。音も色々な音が鳴るので何度も音を鳴らして友達同士で音を鳴らしてまだ会話が成り立たない子どもでも音を通して会話をしている姿があったのには驚かされた。また楽器を使うことでお気に入りの楽器が見つかるとう時間を忘れて叩き続ける姿があった。気分が増すと子ども自ら歩きながら音を出す姿もあった。その姿から曲を流しながら楽器を鳴らすことでさらに音を鳴らすことへの興味関心が高まった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	五反田せせらぎ保育園
所在地	東京都品川区西五反田2-18-3グレイス五反田206

1 活動のテーマ

生き物

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが大好きな生き物がどのように過ごしどのようなものを食べているのか？また生き物にも命があることを知り、命の尊さをどのように子どもたちが感じ取るかを研究したい。

2 活動スケジュール

6月 図鑑や絵本を観察
7月 夏祭りにてワニワニゲームや魚釣りを行う
10月 散歩などで動物を見学
3月 水族館に見学→絵を書く

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

絵本・図鑑（子どもたちが動物に興味を示し常に絵本読みの際に図鑑を見ていた。）
ワニワニや魚釣りのおもちゃを用意（子どもたちが生き物のおもちゃを通して興味を深める。）
生き物のパズル（子どもたちがどんな形をした動物なのか想像しながらパズルを行う。）
水族館に見学（本物の生き物を見る）→絵を書く（クーピー）

4 探究活動の実践

＜活動の内容＞

始めは子どもたちは図鑑や絵本の生き物に興味を示し子どもたちから動物の名前を聞いてきたり、何を食べるのかなど話が広がっていった。興味を深まったのでこどもたちがゲームを通して動物に触れてみたいようになるように促した。また生き物の形をパズルを通して知ることができた。触れてみたい直接めてみたいということから子どもたちと水族館に行き動物と連れ合ったり、食事をするところなど見ることで動物への愛着が深められた。水族館後には子どもたちから優しくしようねなど言葉が発せられるようになり生き物の命にも興味を示すようになった。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。

（HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）



5 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

図鑑や絵本を通し動物への興味関心を深め積極的に絵本を見たり、動物について『僕はこれがかっこいい』など子どもの感性を伝える姿が多く見られた。また動くように生き物を作りおもちゃとして遊ぶことで動物に口を作った、生き物の表情を子ども各々で作成することができていた。その後す本物を見たいということで水族館を企画し子どもたちと行くことで生き物の食事風景や排せつ物などを見ることで生き物も自分たちと同じように生きていることを知ることができ、子どもたちから生き物を大切にするような言葉を発するようになった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	五反田せせらぎ保育園
所在地	東京都品川区西五反田2-18-3グレイス五反田206

1 活動のテーマ

感触遊び

＜テーマの設定理由＞

子どもたちが感触遊びを楽しむ中で苦手な感触もある中でどのような姿で楽しくなるかを研究したい。

2 活動スケジュール

5月 寒天遊び
7月 ウォーターベット感触遊び
10月 パン粉小麦粉遊び
12月 お豆腐・こんにゃく遊び
3月 片栗粉遊び パン遊び

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

それぞれの遊びの中で寒天・パン・小麦粉・お豆腐こんにゃく・片栗粉・パンなど子どもたちがそれぞれの食材をのびのびと触れるように机だけでなく床にブルーシートなどを準備し行った。ウォーターベットは体で体験できるようにゆっくり一人一人が体験できるように十分に時間を費やした。

4 探究活動の実践

＜活動の内容＞

子どもたちは見ためで判断することが多く、スライムなど手で触るのを嫌がる子どもがいたのでスプーンなどを使い直接手につかないように行うことで少しずつ手で触れるようになった。また普段口に入れている食材などを手に取り触ったりにおいをかいだりすることで積極的に触れるようになっていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。
(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感触遊びは手で会触ることが楽しいのですが、なかなか触れずにいた子どもにはジップブロックやコップとスプーンなどを使うことで物での興味は出てきた。その後遊びの延長で少しずつ触れることにも挑戦する姿があった事には驚きだった。また日ごろ口にする食材を手元にするのと口に入れるのとまた違った感触と共に子どもたちの発見があった。